



アメダスってどんな仕組みなの

アメダスは地域自動気象観測の仕組み

気象庁では、1974年から日本全国で、自動的に気象を観測することを始めました。全国の約1300か所から雨の量を、また、そのうち、約840か所では、雨のほか、風の向き、風速、気温、日照を観測し、データは1日24回、自動的にセンターへ集められます。観測装置には、雨量、風速、気温などを観測するロボット気象計や、雨量だけを観測するロボット雨量計などがあります。

また、雪の多い地方では、約210か所で雪の深さも観測して、自動的にデータをセンターに送っています。

集められたデータは、全国の気象台へ

集められたデータは、センターでコンピュータを使って整理し、気象庁や全国の気象台に送られます。

各気象台ではこのデータを、天気予報作りに役立っているのです。(監修 村山貢司)

